

外付ハードディスク（HDJA-UTシリーズ）
パソコン接続ガイド

本製品はNTFSフォーマット済みです。
Windowsでは、そのまま使用できます。
Mac OSでは、フォーマットする必要があります。

お使いになる前に

本製品はフォーマット済みのため、通常はフォーマットする必要はありません。
ただし、以下の場合フォーマットが必要となります。フォーマット方法は【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

フォーマットが必要な場合

- お使いの OS により認識できるフォーマット形式が異なるため、再フォーマットが必要になります。
- Mac OS で使用する場合
 - Windows と Mac OS で共用する場合
 - Mac OS 拡張形式 (HFS+) で使用していた HDD を Windows パソコンに接続して使用する場合

フォーマットとは？

本製品をお使いのパソコンや対応 LAN DISK でデータを読み書きできる状態にする作業です。
フォーマットにはいくつか種類があり、お使いの OS により認識できるフォーマット形式が異なります。

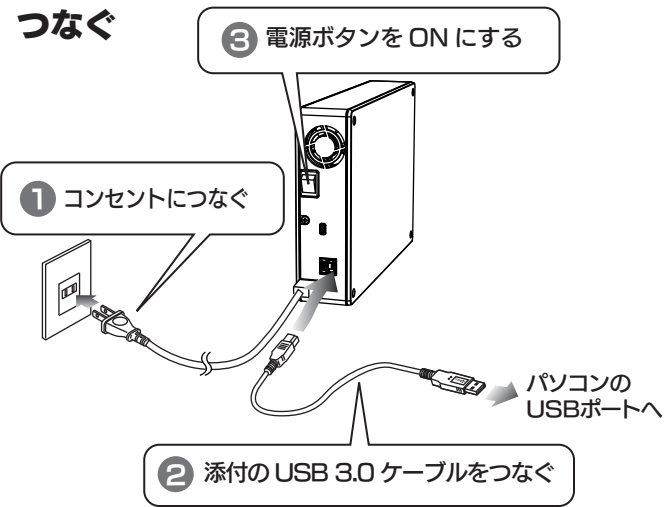
●フォーマット形式

NTFS	Windows 用のファイルシステムです。4GB 以上のファイルも保存できます。 Mac OS では読み込みのみ可能です。（保存はできません。）			
FAT32	Windows と Mac OS のどちらでも使用できるファイルシステムですが、 4GB 以上のファイルを保存することはできません。			
exFAT	Windows と Mac OS のどちらでも使用できるファイルシステムです。 4GB 以上のファイルも保存できます。Windows Vista SP1 以降に対応です。			
Mac OS 拡張形式（HFS+）	Mac OS 専用の形式です。4GB 以上のファイルも保存できます。 Windows では使用できません。Mac OS 上でフォーマットが必要です。			
LAN DISK 専用	対応 LAN DISK のみで使用できるファイルシステムです。 ※フォーマット方法は各対応 LAN DISK の取扱説明書をご覧ください。			

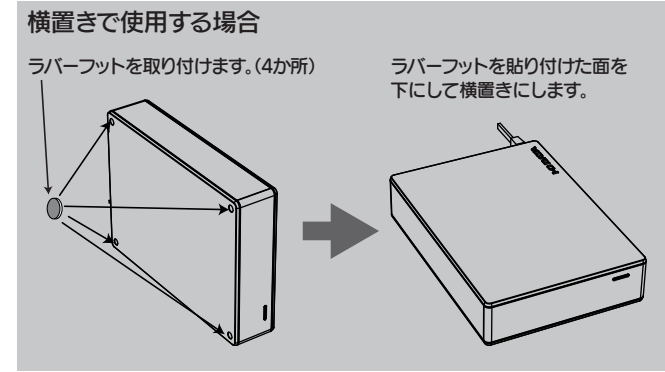
	NTFS	FAT32	exFAT	Mac OS 拡張 (HFS+)
Windows	読み込み / 保存 可	読み込み / 保存 可※1	読み込み / 保存 可※3	不可
Mac OS	読み込みのみ可	読み込み / 保存 可※1※2	読み込み / 保存 可	読み込み / 保存 可

※1 4GB 以上のファイルは扱えません。
※2 Mac OS でマウントすると時間がかかることがあります。
※3 Windows Vista SP1 以降に対応です。

Windowsで使用する場合



コネクタの向きにご注意ください
USBは接続できる向きが決まっています。接続しにくいときは、コネクタの向きをご確認ください。誤った向きで無理に接続すると、USBケーブルやUSBポートが破損する恐れがあります。



確認する

ハードディスクアイコンが追加されていれば使用できます。

ドライブ文字は、お使いのパソコンにより異なります。

- 本製品のアイコンが分からない場合は、いったん【取り外す】を実行し、消えたアイコンが本製品のアイコンです。
- 本製品のアイコンが表示されない場合は、【よくある質問】をご覧ください。

取り外す

※ここではパソコン起動中に本製品を取り外す場合の手順を説明します。

① 画面右下のタスクトレイのリムーバブルツールをクリックし、本製品の表示をクリックします。

② クリック

① クリック

(画面例:Windows 7)

リムーバブルツールが表示されていない場合

① クリック

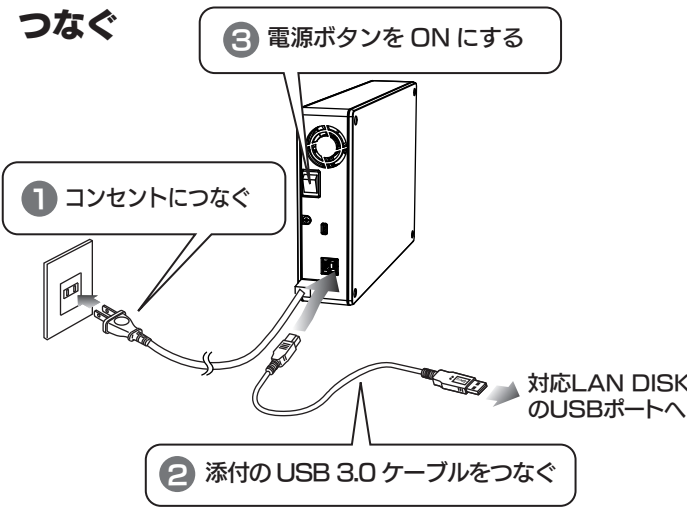
② クリック

② メッセージを確認し、画面の指示にしたがいます。

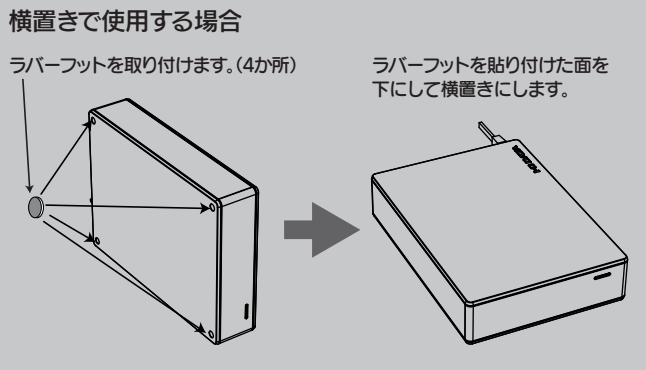
③ 本製品を取り外します。

コネクタを持って抜きます
ケーブル部分を引っ張らず、コネクタを持って抜いてください。

対応LAN DISKで使用する場合



コネクタの向きにご注意ください
USBは接続できる向きが決まっています。接続しにくいときは、コネクタの向きをご確認ください。誤った向きで無理に接続すると、USBケーブルやUSBポートが破損する恐れがあります。



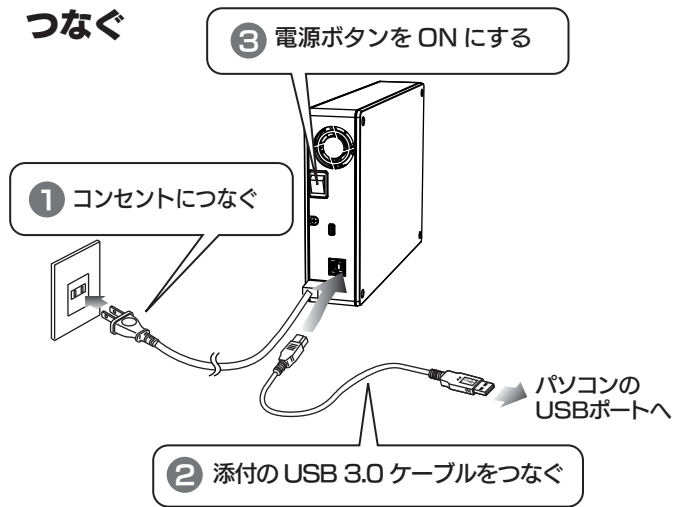
使用法は、対応 LAN DISK の取扱説明書をご確認ください。

Mac OSで使用する場合

フォーマットが必要です。

事前に、Mac OS形式でフォーマットしてください。
※方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

つなぐ



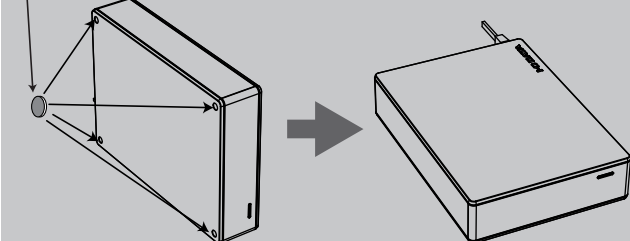
コネクタの向きにご注意ください

USBは接続できる向きが決まっています。接続しにくいときは、コネクタの向きをご確認ください。誤った向きで無理に接続すると、USBケーブルやUSBポートが破損する恐れがあります。

横置きで使用する場合

ラバーフットを取り付けます。(4か所)

ラバーフットを貼り付けた面を下にして横置きにします。



Time Machine機能画面が表示された場合のご注意

本製品をパソコンに接続した際、Mac OSの仕様でTime Machine機能の画面が表示されることがあります。

[消去]をクリックすると、本製品のフォーマットがはじまりますので、誤ってデータを消去しないようご注意ください。

※Time Machine機能については、Apple社ホームページをご確認ください。
本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。

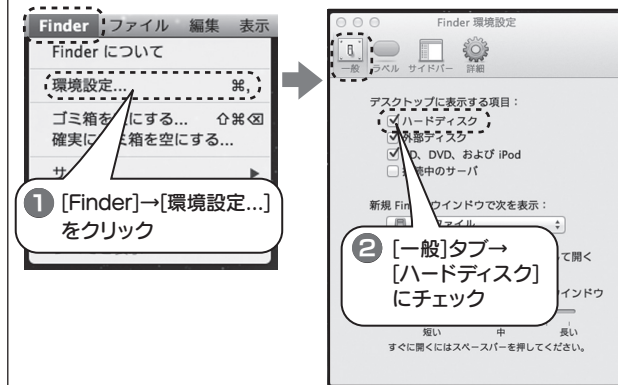
確認する

右のように、ハードディスクのアイコンが追加されていれば、本製品を使用できます。
※本製品の名前は、フォーマット時に任意に入力したものにります。



● アイコンがデスクトップに表示されない場合

次の手順でFinderの環境設定を確認してください。
[デスクトップに表示する項目]で、[ハードディスク]にチェックしてください。



取り外す

※ここではパソコン起動中に本製品を取り外す場合の手順を説明します。

① 本製品のアイコンをごみ箱に捨てます。

※本製品の名前は、フォーマット時に任意に入力したものにります。



※[ファイル]メニューの[“xxx”を取り外す]をクリックして取り外すこともできます。(xxxはフォーマット時に設定した名前です。)

② 本製品を取り外します。

コネクタを持って抜きます

ケーブル部分を引っ張らず、コネクタを持って抜いてください。

? よくあるご質問

Macで使用する際のフォーマット方法

本製品を Mac につないだ後にフォーマットしてください。
Mac OS でのフォーマット方法は、【画面で見るマニュアル (パソコン Mac OS 編)】をご覧ください。

WindowsとMac OSで共用する際のフォーマット方法

本製品を FAT32 または exFAT でフォーマットしなおしてください。フォーマットは、Windows 専用ダウンロードソフト「I-O DATA ハードディスクフォーマッタ」でおこないます。
フォーマット方法は、【画面で見るマニュアル (パソコン Windows 編)】をご覧ください。

本製品のアイコンがない(正常に認識されない)

- いったん取り外し、再度接続しなおしてご確認ください。
- 接続する USB ポートを変えてご確認ください。USB ハブに接続している場合は、パソコン本体の USB ポートに接続してください。
- Mac 専用フォーマットの場合、Windows 上でアイコンが表示されません。Windows で使う場合は、フォーマットし直す必要があります。(フォーマットすると、データはすべて消去されます。)

データのコピー方法が知りたい

通常の内蔵ハードディスクと同様にコピーできます。
コピーの例については、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

「取り外しできません」と表示された

使用しているソフトウェアをすべて終了してから、取り外してください。それでも取り外せない場合は、パソコンの電源を切ってから取り外してください。

「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された

[はい]([続行]) ボタンをクリックしてください。

フォーマットしなおしても正常に認識されない

Windows の右クリックからフォーマットしても正常に認識されない場合があります。必ず「I-O DATA ハードディスクフォーマッタ」でフォーマットしてください。
フォーマット方法は、【画面で見るマニュアル (パソコン Windows 編)】をご覧ください。



画面で見るマニュアルの見かた

本紙に記載のないフォーマット手順などについては、【画面で見るマニュアル】をご確認ください。
以下の弊社ホームページからご覧いただけます。

<http://www.iodata.jp/lib/>

もっと便利に、もっと快適に

アイオー・アップス
IO APPS

※本製品はインストールしなくても使用できます。
※アイオーアップスの対応OSは本製品の対応OSと異なる場合があります。
詳しくは各ソフトのマニュアルをご覧ください。

アイオーアップスを無料ダウンロードするには？

<http://www.iodata.jp/>
にアクセス

弊社Webサイト内で[IOAPPS]と検索
IOAPPS 検索

進化する明日へ Continue thinking

株式会社 アイ・オー・データ機器
ホームページ <http://www.iodata.jp/>